媒体名	産経新聞
掲載日	2012.3.5

親も安心「屋内ゲレンデ」

子供向けスキー教室「パンダルマンキッズスクール」　プリンスホテル

スキー人口の減少に歯止めをかけようと、スキー場を運営するプリンスホテルが子供向けのユニークなスキー教室を開催している。最大の特徴はスキー場であるにもかかわらず、雪のない屋内ゲレンデも設けてある点だ。いきなり雪上に立たせて、スキー嫌いになる子供が少なくないことに着目、「楽しくスキーを覚えてもらう」のがコンセプトだ。かつてスキーブームを担った世代が子供を連れてスキー場に戻ってくるようになり、集客に一役買っている。

「三角だよ。スキー板で三角を作って」。屋内ゲレンデで試みられているのがファミリー層の取り込みだ。若者だけでなく、かつて1980～90年代のスキーブームを担った世代に子供を連れてスキー場に戻ってきてもらい、スキーの楽しさを親子で味わってもらう。その突破口として期待されているのが子供向けスキー教室。将来のスキー人口増加につなげる思惑もある。

全国に9つのスキー場を持つプリンスホテルもスキー教室の活性化を模索していた。

「ファミリー層に訴える差別化戦略はないか」

そんなときに出合ったのが、スキー場の設計やスキースクールの運営を手がけるアプレスキー（名古屋市天白区）の提案だった。

同社は、夏季にスキーを練習するための、滑りのいい特殊なマットを開発している。子供が遊んでも安全なマットを考案していて、雪を使わない子供向け室内ゲレンデの構想を持っていた。「初めてスキーをする子供にとって、重い装備や雪の上での動きづらさはかなりのストレス。まずは室内で装備に慣れさせることができる」（アプレスキーの白川直樹代表取締役）

ちょうど、プリンスホテルでは苗場スキー場の屋内プールが老朽化して維持や修繕が難しくなり、再利用問題が浮上していた。

「屋内プールをゲレンデに改造し、苗場の新しい売り物にしよう」。さっそくプールの改造工事に着手。パンダルマンキッズスクールはスキーシーズン真っ盛りの22年12月にオープンした。

大事にしたのは、子供たちが「途中でめげない」プログラム作りだ。「パンダルマン」というパンダと雪だるまを掛け合わせたキャラクターと一緒に運動をさせ、スキー靴の重さに慣れさせる。斜面を歩かせるゲームでは体の重心を前に置くスキーの基本姿勢やスキーで左右に曲がる動作を身に付けさせる。

次にスキー板を履き、狭い場所を歩かせて板の長さに慣れさせた上で人工芝の上を滑らせる。雪上なら時速20㌔ほどのスピードが出る傾きだが、子供に斜面への恐怖感を与えないよう、ここでは3～5㌔ほどしか出ない。ここまでをこなしたあと、屋外のプログラムに移る。

パンダルマンキッズスクール（3～9歳）の料金は2時間7千円。「楽しく滑れるようになる」「子供が雪を好きになる」などと口コミで評判が広がり、苗場プリンスホテルでは22年度の年末年始、子供の宿泊が前年比8％増。23年度はさらに17％増となった。

子供連れが増えたことも影響し、宿泊料が比較的高めなファミリールームの稼働率が上がり、ホテル全体の単価が上昇する効果も出ている。今シーズンから同様のコンセプトのスキー教室を軽井沢スキー場（長野県軽井沢町）でも始めた。

苗場の室内ゲレンデでは、家族が普段着のままで子供の様子を見学できる利点もある。白川さんによると、50人の受講者に対してギャラリーが約3倍の150人に膨らむこともあるという。

苗場プリンスホテルの村井宏通支配人は「ファミリー向け施策は軌道に乗った」と自信を見せる。その一方で、「今回親子連れが来てくれているのは、親世代が青春時代に苗場でスキーを楽しんでいた地があったから」と分析する。「そのためには若者に来てもらう努力もしないといけない」と、次の手を打つ考えだ。

（松田麻希）

㊦パンダルマンキッズスクールの屋外ゲレンデ。室内ゲレンデで基本動作に慣れてから外に出る　㊤室内ゲレンデでは枠をくぐったりつるしてあるボールにタッチしたりすることで、スキーの動作を身につける（いずれもプリンスホテル提供）

人気商品 開発ヒストリー

パンダルマンキッズスクール

プリンスホテルが運営する苗場スキー場で開催している子供向けスキー教室。ファミリー層の集客を狙う同社の戦略の一環で、平成22年12月から苗場スキー場で開講し、今シーズンから軽井沢スキー場でも始めた。室内ゲレンデも使い、「遊んでいる」感覚で、スキーの基本動作が学べる。3～9歳が対象で、料金は2時間7千円から。プライベートプログラムもある。